［社会科学習指導案］　（１１月１０日（木）第５校時）

１題材　「解放令以後の最下層の民衆の暮らし」

２本時の目標

「解放令」によって最下層の人々は、制度上は他の農工商の人々と対等にはなったけれど、実生活では逆に江戸時代以上のきびしい状況に置かれるようになったことを理解させる。

学習活動	指導上の留意点
・解放令によって、最下層の人々は、本当に他の身分の人々と平等になれただろうか。 C　平等にはなっていないだろう。 ・なぜ、そう思うのか。 C　急に差別意識はなくならない。 仕事につこうと思っても差別されて働けない ・江戸時代役人の下ばたらきをさせられていた人々の暮らしはどうなっただろうか？ C　いやな仕事をしなくてもよくなったからましだろう。	本時の課題 子どもたちは、差別感覚が残ることを中心に出してこよう。それは、認めた上で、制度面からの問題を入れておきたい

今までそれで、生活していたのに、仕事がなくなる

・牛や馬の皮製品を作っていた人々はどうだろう

・他の人々もその仕事をやるようになると、競争相手が増えて、もうからなくなる。

・歴史の事実はどうだったのか見てみよう

京都Y部落の例

・士族は、国からお金をもらっているのに、彼等には何の保障もしなかったことは説明する。

・皮革製造業は、江戸時代には、部落の特権であったことを説明する。

［京都のある部落のようす］（１８８６年・明治１５年の調査）

戸数１１１１戸、人口４３６９人のうち、

・「現在生活にこまっているもの」……７４９戸（６７％）

そのうち、４００戸あまり（３６％）は、「わずかに残っている着物や品物を売ってなんとかその日の腹をふくらせている」状態であり、残り３４９戸（３１％）は、「持ち物もなく、ただ、となり近所の人々の助けによって、生きている。どうかすると、うえじにしそうな状況である」という。

また、べつの農村部落では、

「村の半数の家では、ひどい貧乏ぐらしであり、ひどいところでは、ぼろをまとい、なんとかその日をうえじにしないですませているという人々もいる」

【授業記録「解放令」】

T　江戸時代の身分制度は、明治に入って、四民平等という政府の方針で、身分制度をやめましょう、ということが正式に決められた。それから、江戸時代にもっとも差別された人々は、別に解放令というのが出され、いっさいの差別はやめましょうということになった。
で、農工商は、どうなったの？
C　平民
T　平民になったわけですね。この中に農工商、みんな同じ平民だということになったわけですね。
ただし、士は？
C　士族
T　さむらいの方は、士族という、やっぱり優遇された形でのこった。
　今日の問題は、この解放令によって差別された人たちは、平民の仲間にほんとうに入ることができただろうかという問題です。はい、自分の考え書いて
C　（自分の考えをノートに書く。）
明子　昔は、へんな仕事させられて、身分の低いやつだったとか言われて、仕事するときでも、そういうのが残ると思うで、いっしょになれない。
真人　僕も悪い仕事から良い仕事になってもどうせ、差別される
美豊子　差別の気持ちが変わらないから。
幸則　前のことでも、あいつら悪い仕事しとったんやて言われる。
智美　いくらよい仕事についても、他の人からいじめられる。
T　はい、ここの列の人はみんな同じ意見ですね。
　あいつら、もともと低い身分のやつだった、という気持ちが残っていて、やっぱり差別されるだろう、という考えですね。
力　この人らはよ、明治になっても昔のこと覚えてる人は、あいつは、殺し役やってたやつや、とかいうて、仲間にいれてもらえへんやん。ほんで、明治時代になっても、差別は残る。
T　そういう、今までの歴史が残っているから、時代がかわっても、その感覚をひきずっている。

裕幸　今までずっと差別をうけてきたんやで、急に四民平等ていうても、なかなかはいれへん。政府はエタと非人の生活を積極的に高める努力をしなかったで、まだなくならん。

T　今、ちがうこと言ってますね。

力　うん、教科書に書いたる。

T　じゃ、ちょっと教科書見てみましょう。

　そこ、読んでくれる。

裕幸　読む

これまで、農工商の下のおかれて、低い身分とされていた人々も、平民とされました。（いわゆる解放令）。しかし、政府はこれらの人々の生活を高めるような政策を、おこないませんでした。

力　積極的にしてたらな、まだ仲間になれたかもわからんけど、政策せんと、まだ仲間はずれみたいなもんや。

T　わかる？積極的に何もしなかったって。一方で積極的にしてもらった人もあるんですね。暮らしが変わったときに。だれでしょう。

和幸　天皇陛下

T　そう、天皇陛下、その一族はそうですね。

　それから

C　士族

T　侍は、江戸時代はどうやってくらしていたの？

C　領主から給料いうか、米もらって。

T　お百姓から吸い上げた年貢を分配して領主からもらってたんですね。その侍たちは、明治になって、四民平等になったときに、そういう生活がなくなった。つまり、侍を失業した。今まで領主からお米もらってたのが、もらえなくなったんですから。その時、侍たちはどうしてもらったか。新しい仕事につくためのもとでになる金を退職金としてもらってるんですね。これから新しい仕事つくのに、何にもなしではできんから、いうて、国から特別にお金をもらってるんです。

　日夏先生からもらった資料です。

大名たちは、いくらぐらいもらったか。

C　百万円ぐらい。三千万円ぐらい……

T　実は、六千万円ぐらいもらってるんです。
　一生働かなくても生活できるぐらいのお金が大名クラスの侍にはもらえたんです。
　一般のおさむらいさんは、どれぐらいか。
C　（いろいろ言う）
T　平均すると、５２５万円ぐらいです。
C　少ない
T　でも、これだけのお金をぽんとくれたんです。
　新しい仕事につけるように、といって。
力　いーっ、政策ちゃんとしたるやん。
T　そう、しているんですね。ところが、この人たちには、何もしなかった。
力　政府も差別してるやん。
T　「積極的な政策は何もしなかった」ということは、そういうことですね。
　つまり、お金も何もやらなかった。
　ということは、江戸時代と同じということなのかそれとも、江戸時代よりもっとひどくなったのかどう思う？
このひとたちは、江戸時代と同じだと思う人
C　無し
T　このままいったら、江戸時代よりもっと悪くなると思う人
C　５，６人挙手
T　ほう、すごい。じゃ、なんで？善崇
善崇　わからん
大輔　江戸時代の時は、そういうエタ非人でも、ちゃんと生活できたやん。あの、突き役とかしても、大名から少しはお金もらえたやん。ほれで、ちょっとは生活できたけど、明治になってからは、みんなから差別されるしそれに、社会的に店で働こうと思っても。
T　今始めに言ったことが大事。江戸時代はくらせたけど、というところ。
保　江戸時代の時は、人ついてな、むごい仕事やけど、なんとかそのお金で生活できたけど、解放令がでて、四民平等になってからはな、そういう仕事なくなったやん。ほのうえ、お金がなくなったうえに、どこいっても働き口がないしな。
美豊子　うんと、解放令が出ても非人をやっていたから、それがうしろにつきまとって、店にやとってもらおう

と思っても、あいつは、何をやるかわからんいうてやとってもらえない。

T　そういことが一つ。それプラス、

今までは役人の下働きでわずかのお金をもらいながら生活していた。ところが、明治になってなくなってしまった。失業した。今までわずかにはいっていたお金もはいらなくて、残っているのは、美豊子がいったように差別の目だけ。

もう一つ

差別された人々にはいろいろあって、みんなが突き役をしていたわけではないんですが、たとえば、死んだ牛や馬の処理をする仕事もこの人たちの特権になっていました。それが、みんな平等になって、自由になった時にどうなっていくか。

今まで、この人たちだけにできた仕事が、だれがやってもよいということになったら、それは、この人たちにとって良いことか、悪いことか。

C　悪い！良い！

T　良くなると思う人

C　（勇也一人）

T　悪くなると思う人

C　多数挙手

T　勇也、どうして良くなると思う

勇也　今までは、べつにされてたやろ。それが、みんなができるで。

T　ああ、勇也がいうてることわかる？

勇也は、今まで差別されてた人の仕事をみんなができるようになることは、みんなが、おんなじ人間になるいうことやな。だから、差別してる気持ちもだんだんなくなってよいんちゃうかな、いうんね。

じゃ、ほんでも、この人らにはよけい悪いことになったと思う人。

智子　他の人もいっぱいきやったら、自分のもうけが少なくなる。

真ひと　今までは、「定ちゃんの手紙」みたいに（国語で学習中の教材）人力車しかなかったから、みんなここへ乗りにきやったやん。車ができて父ちゃんがこまったみたいに、他のところでもできるようになったら、客をとられる。

暢子　さっき智子ちゃんがいったみたいに、収入が減っ

てしまうの。前は、そこしかやってやらんかったでな、以外と売れてたけど、他の人もいっぱいするとな、ほれだけ、沢山できるで、収入が減って貧乏になる。

幸則　ぼくは変わらんと思うけど。

いくら、解放令がでても、やっぱし、仕事も昔エタ非人がやっていた仕事やでいやがるんちがうかな。

T　なるぼどね。

和幸　けどよ、商人とかお金もちやろ。ほれが、牛の皮とか買い占めて、大量生産とかやったら、商人はもうかる。

T　幸則は、昔差別されていた人がしていた仕事なんかだれもしないだろうという意見ね。だけど、それで商人は金もうけのためなら、皮を買い占めて工場とかで大量生産したらもうかるからやるんじゃないかというのね。

そういうことでいうと、自分たちの仕事をくわれていく。

力　皮の仕事をしてる人やったら、やっぱりこれが命みたいなもんやろ。

T　今力が言ったことで大事なことは、この人達が解放令が出て自由になったからといって、どんな仕事にでもつけたか、ということですね。この仕事しかなかったんじゃないか。そのときに、競争相手が増えるということは、

力　商人が工場とかで、大量生産したら、競争にもまけてしまう。

T　そう。一人で、やっているより、安くできるからね

こう考えてくると、この人たちにとって、暮らしは、よけいくらしにくくなってしまったといえますね。そのことが、記録に残っています。

（説明しながら読んでいく）

話し合いの内容をまとめて終わる。

［京都のある部落のようす］（１８８６年・明治１５年の調査）

戸数１１１１戸、人口４３６９人のうち、

・「現在生活にこまっているもの」……７４９戸（６７％）

そのうち、４００戸あまり（３６％）は、「わずかに残っている着物や品物を売ってなんとかその日の腹をふくらせている」状態であり、残り３４９戸（３１％）は、「持ち物もなく、ただ、となり近所の人々の助けによって、生きている。どうかすると、うえじにしそうな状況である」という。

また、べつの農村部落では、

「村の半数の家では、ひどい貧乏ぐらしであり、ひどいところでは、ぼろをまとい、なんとかその日をうえじにしないですませているという人々もいる」

「